

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500200		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	山口県周南市櫛ヶ浜西浜田 517-11		
自己評価作成日	平成25年7月22日	評価結果市町受理日	平成25年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の安全とご家族への安心を提供できるように、また緊急時や重度化による対応や看取りにも適切な対応ができるよう取り組んでいます。介護者として支援するのではなく、家族として喜怒哀楽のある生活を共に送っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者は、月2回の職員会議の他、日常の業務の中でも職員の意見や提案、悩み等を聞かれるなど、職員が働きやすい職場環境になるように配慮しておられ、職員は充実した気持ちで勤務されており、利用者一人ひとりへのサービスの質の向上につなげておられます。月3回内部研修を実施され、内1回は外部講師(薬剤師)を招いて、全職員が参加され、保健情報や最新の医療情報を学ぶなど、働きながら知識や技術を身につけていく取り組みをしておられる他、内部研修は楽しみながら、小テスト(報奨金)に挑戦するなど職員が向上心を持って学べる様に、職員の質の確保や向上に向けた育成をされています。前回の外部評価結果を活かして、目標達成計画を立てられ、利用者一人ひとりの思いや意向の把握について、毎月の会議でカンファレンスを重ねられ、全職員が意識して取り組むことができるようになり、職員は利用者一人ひとりの思いにそったケアに取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者が行うべきサービスの意義や事業者理念を共有し実践につなげるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎月の勉強会で理念を共有し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事への参加や、日常的に近隣との交流を行っている。	自治会に加入し、地域の行事に参加している。地域の幼稚園の運動会や遊戯会への招待があり、見学に行っている。散歩時に近所の人から季節の花や野菜の差し入れがある他、事業所で作る米ぬかを畑で野菜をつくっている近所の住民に届けたり、テラスに出ると隣の住民からの声かけがあるなど、日常的に交流している。ヘアーカットのボランティアが3ヶ月に1回来訪し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症高齢者に関する講演等の開催を、自治会に回覧でご案内している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議や日々の業務の中で話し合い改善に取り組んでいる。	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解しており、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価する中で日々のケアの改善等について意見があり、改善に取り組んでいる。昨年の外部評価結果について勉強会で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動、ひやりはっと事故報告等を報告し、参加者からの提案等はサービス向上に活かしている。	2カ月に1回、法人のグループホーム(心音)と一緒に開催している。事業所の活動状況やヒヤリハット・事故報告など報告し、意見交換を行っている。出た意見はサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加や、サービス提供に関する相談や報告を行い関係が築かれている。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話や出向いて相談や報告を行う他、情報交換をしているなど、日ごろから連絡を密にとり、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や身体拘束をせずに、安全に生活していただけるケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会規定により、計画的に勉強会を行い、職員は正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い学ぶ機会や、虐待に繋がるような環境にならないように環境整備を行い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い学ぶ機会を持ち理解に努めている。成年後見制度を利用されている方もおられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご意向や疑問等の確認を行い、理解していただけるように説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情があれば法人内で調査し、改善策や結果をご家族や運営推進会議で報告し再発防止に取り組む体制にしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。利用者や家族からの相談、苦情は面会時や電話、運営推進会議時などで聞いている。月2回介護相談員の訪問があり、利用者の意見を聞いて、事業所に伝えている。運営に反映させるような意見や苦情は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員が意見や提案が言える関係性を築き運営に反映している。	月2回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、代表者や管理者は、日常の業務の中で意見を聞いて、反映させるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務状況の把握や、勉強会で行う小テストでの成績によってはご褒美があったりと、職員が向上心が持てる環境に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や外部講師（薬剤師）による勉強会を月3回開催し、他の施設での研修を受ける機会を確保している。	外部研修は参加の機会を提供し、参加後は内部研修で復命して、全職員で共有している。月3回内部研修を実施し、うち1回は外部講師（薬剤師）を招いての勉強会を実施し、全員が参加し、働きながら知識や技術を身につけるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修や相互訪問等で交流する機会を設けサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による不安や混乱を最小限に抑え、早い段階で生活に馴染めるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みから契約時には、サービスを提供するにあたり安心していただけるよう説明や要望に対応し関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護者としてではなく、共に生活する家族として		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としてだけではなく、共に生活する家族として支援を行い関係性を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係が薄れないよう配慮し、職員とご家族とで支援できるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出で馴染みの関係が継続できるように努めている。	家族の面会や友人、知人の来訪、家族の協力を得て買い物や外食、選挙に行く他、暑中見舞い状を書いてポストに投函に行くなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が意欲や活動に繋がるよう座席を考慮し、支えあえる環境整備に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	命日やお盆のお参りをさせてもらったり、ホームの行事やその他関係を継続させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのようにして過ごしたいのか等できるだけご本人が思いや希望が言えるよう、また困難な場合は一方的に押し付けないように努めている。	職員は利用者の話に耳を傾け、処遇日誌に記録して、カンファレンスで希望に沿った支援が出来るよう職員間で検討し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関から情報を収集し生活歴やなじみの暮らし方が把握できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録し全職員が情報を把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即したケアができるよう細目にカンファレンスを行い検討している。	職員の意見や家族の意見を参考に、計画作成担当者と管理者でカンファレンスを実施して話し合い、介護計画を作成している。毎月の職員会議で、利用者のケアカンファレンスを実施し、3ヶ月に1回モニタリングをして、1年に1回見直している。状況に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した結果や改善点を含め職員間で検討し、ご本人にとって一番良い支援方法をケアプランに取り入れるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて臨機応変な支援ができるよう、勉強会や研修会への参加をし多機能化に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況に応じて地域資源を活用、運営推進会議の開催でインフォーマルの活用も増え地域との協働で支援できるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制でかかりつけ医との連携を行い、受診や入院に備え適切な医療が受けられる体制を整え支援している。	協力医療機関をかかりつけ医としている。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。協力医療機関とは24時間体制で、緊急時の対応や往診、電話での相談など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を記録し看護職に報告や相談を行い、対応の指示や受診の必要性等の指示を受け医療が適切に受けられるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう主治医との情報交換や相談を行う、また入院による環境の変化でおこる混乱等を最小限に抑えるため、できるだけ毎日面会し不穏にならないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のご意向を尊重し主治医と話し合いを行い、事業所としてできることやリスクについて十分に説明をし方向性を統一し取り組んでいる。また職員は看取りに対して精神的負担にならないように勉強会や日々の業務で体制を整えている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所でできる方針について、家族に説明している。重度化した場合は本人、家族の意向を尊重し、主治医と話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。職員は看取りについて精神的負担にならないように勉強会や日々のケアの中で介護技術の習得の支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	常にホーム内の状態を把握する。服薬対応は準備から与薬まで2名体制で行う。緊急時の対応にも慌てず適切な対応ができるように講習や訓練にて実践力を身につけるように努めている。	ヒヤリはつと報告書、事故報告書に記録し、対応策を検討して、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。月1回の勉強会や消防署の指導で緊急時の応急手当方法について学んでいるが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し災害発生時の連絡方法や避難場所等の確認、地域への協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回、夜間想定をした避難訓練を実施している。災害発生時の連絡方法や避難場所の確認を行い、自治会長の参加を得て利用者の避難誘導するなど、訓練を実施している。地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねないよう声掛けをするようにしているが、職員同士でできていないと感じた時は対応を代わるようにしている。	月1回の勉強会で学び、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について、職員は理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日々のケアの中で気になることがあれば管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が言える環境や、自己決定できるように声掛けや支援方法を一人一人に合わせて行うように努めているが、職員の都合で決めてしまうことがあるので「ゆっくり待つ」を心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでその人らしく過ごせるように努めているが、職員側の都合で動いてしまうことがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や洋服を選んだりできる範囲で行っていただけるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力量に合った準備を一緒に行っている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。お米とぎ、茶碗洗い、下膳、おしぼり巻きなど、利用者はできることを職員と一緒にしている。利用者の状況に合わせて、とろみ食、刻み食、ミキサー食など形状に工夫をし、職員は利用者と同じテーブルを囲んで会話をしながら、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や活動量に応じて、食事量や水分量の調整を行い記録している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後リビングにて状態に応じた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便を把握し、個々に応じて飲食物での対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合で入浴の時間帯を決めてしまっているのですが、せめて入浴中はここにに応じて入浴時間を調整し楽しんでもらえるように努めている。	毎日10時から11時30分までを入浴時間とし、入浴剤を使うなど工夫して、入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や身体状況に応じて休息できるように支援し、室温管理を行い快適に安眠できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が届くと個々の服薬記録票に毎回記入し理解するようにしている。また月に1回薬剤師の先生による薬剤勉強会を行い、服薬や病状の変化に適切に対応できるよう努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力量に応じて役割があり活躍の場を設けたり、また喫煙される方への対応を行い生活歴を尊重し支援している。	貼り絵、ちぎり絵、ぬり絵、編み物、雑巾縫い、繕い物、ボタンつけ、ボール投げ、ハンドベル、輪投げ、トランプ、黒ひげゲーム、漢字クイズ、口腔体操、テレビ観賞(時代劇、昼のドラマ、野球中継)、おしぼり巻き、雑巾絞り、箒で掃く、お米をとぐ、洗濯物干し、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、一人ひとりが張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態に応じてご家族とご本人を交え外出に出かける。日々の散歩等は職員の都合で決めてしまうことが多くなっている。	散歩や買い物、ご近所に米ぬかを届けたり、法人のグループホーム(心音)の足湯の利用など戸外に出かけられるよう支援している。家族の協力を得て買い物や外出に出かけるなど支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理が困難になってきている為細目に確認を行い、買い物時はレジでの支払を見守りながら行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をすることはないが、ご家族から電話があれば変わってお話してもらったり、季節の便りを出したりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にならない環境や季節感がある空間づくりに努めている。	玄関に花を活け、リビングは木製のテーブルやソファを置き、利用者はゆったりと過ごしている。テラスに出て、洗濯物を干したり、取り込んだり、隣家の人と会話をしたり、対面キッチンから調理の音や匂いがするなど、生活感を感じることができる。季節の花や飾り付けをして、温度や湿度にも配慮し、居心地良く過ごせるように支援している。犬を飼っており、利用者の癒しになっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置や活動時等は気の合う仲間での時間が過ごせるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具等在宅時に使用されていた物を搬入していただき、ご本人が安心できる環境づくりをしている。	使い慣れたベット、ダンス、布団、テーブル、椅子、時計、小物入れ、鏡台、家族写真など好みのものを持ち込んで、本人が安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身のレベルに対応し貼り紙をしたり、歩行時は安全に歩行できるよう配慮している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホームこころ

作成日： 平成 25年 12月 5日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止についての重要性や事故発生時の対応について、全職員が同じレベルの知識・実践力を身につけていない。	全職員が事故発生時には、的確に判断できる応急手当や、初期対応が確実に行えるように実践力を身につける。	勉強会や外部講習を継続して行う中で、一人で確実に対応できるまで個人レベルに合わせて勉強会を行う。事故防止についてもしっかりと意識が持てるように、事例ごとにリスクを話し合い何に影響を与えるかを理解していく。	5か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。